

## 館林文化史談会令和3年野外研修「江戸と令和の善導寺を訪ねる」

令和3年11月27日 館林藩初代藩主である榊原氏の菩提寺であった善導寺の江戸時代の伽藍跡と現在の善導寺を見学しました。(8名参加)

善導寺は榊原康政により外加法師から城下の谷越町に移転されました。(現在の館林駅を西端とし、駅前から谷越通り近くまでを占める)そして、平成2年には駅前再開発により楠町に再度移転しています。

今回の野外研修では江戸時代の善導寺境内が描かれた絵図を見ながら跡地を巡り、かつての境内を足で歩いて広さを実感しました。現在の善導寺では多くの建物を拝見し、更に榊原家や大給松平家など、かつての館林を治めた方々のお墓を拝見いたしました。

今回の訪問により、関東十八檀林に数えられた善導寺の威容に改めて驚くと共に、移転後も城下町に残る多くの痕跡を発見することが出来ました。館林藩主だった榊原家や大給松平家への理解も深まったようです。



大門の通り・護念寺跡を見る  
背景の祠は出世稲荷



護念寺はこの辺りにあった



表大門前の川に掛かる橋の跡付近。  
現在の川





#### 善導寺境内の中心地跡

(不動堂跡より・左後方は館林駅舎)  
この駐車場の一番奥の辺りに本堂があったが、真正面より少し左(館林駅側)にずれた位置である。



#### 明龍水・龍神の井戸



井戸の全貌。後方が本堂跡。



※榑原康政の墓跡の石碑の図は見やすいが混乱を招きかねない。

#### 榑原康政の墓跡(館林駅前)



正面。石碑の絵から榑原家の墓は南面しているように見えるが、研修終了後の確認で、館林市史・特別編第4巻『館林城と中近世の遺跡』に移転前の写真と図があり、東を向いていたことがわかった。



#### 旧善導寺境内の南端土塁跡

(城下町南端・堀跡を歩く)

江戸時代の善導寺境内は、西は館林駅、東は谷越通りの近く(旧東和銀行館林駅前支店辺り)までであった。また、南は総構えの南側の土塁までが境内という広さがあった。



善導寺山門（ここから現在の善導寺）



山門に掛かる「終南山」の扁額



大給松平・松平乗寿（のりなが）の墓前にて



山門を入り、左手に薬師堂。その手前にある



松平乗寿の墓（無縫塔）



「前泉州刺史」とのみ刻まれている  
「前の和泉守」の意味



榊原家の墓（当日、撮影しなかったもので、同年5月23日に撮影したもの）

良くわかるのが榊原康政の墓（宝篋印塔）



このような配置になっており、左から、南直道、榊原康政、大須賀忠政（康政長男）、榊原康勝（康政三男）、花房氏（康勝の生母）



検断・小寺家の墓

（近くに青山家のお墓もありましたが、新しくなっていました）



善導寺庭園（撮影は11月24日）